



学校だより

横浜市立相武山小学校

2月号

令和5年1月31日

～ まちのみんな ひとつになあれ ～



「訓練」

学校長 後藤 直樹

1月は事前に報道されていた通り、コロナとインフルの同時流行という展開となりました。そのような中ではありましたが、子どもたちは十分な換気により、なかなか暖まらない教室の中で、残りも少なくなってきた今年度の学習を頑張っているところです。

さて、本校では月に1回のペースで火災や地震を想定した避難訓練を計画的に行っています。これは、法令にも定められているので、全国で同じように実施されています。年度当初より、様々な場面を想定しながら事前の通知有無や休み時間中など、少しずつ困難度を上げていきます。校長は指導講評という役割で最後に話をしますが、指示にしっかりと従い落ち着いて行動している子どもたちですので、そこでは毎回褒めることとなります。昨年12月には不審者対策の訓練を実施しました。担任の先生に指示された通りに子どもたちは教室の隅に身を寄せ合い、話し声や物音をたてずにじっと気配を殺しています。私が教室を覗くと、たまたま目が合った子がニコッと笑顔を返してくれます。この訓練にもいつも通り真剣に取り組んでいました。しかし、子どもたちがしっかりとやればやるほど虚しい気持ちがこみ上げてきました。いつからこんな訓練が必要な世の中になってしまったのだろう。そんなことを頭の隅で考えながら、いつものように子どもたちを褒めている自分がいました。

2001年6月の大阪池田小学校の事件以来、学校は安全な場所とは言えなくなってしまいました。それまではある意味で無防備であった学校が、自衛することを求められ、国も計画的にこのような訓練を実施するよう指示しています。児童が学校にいる時間帯は、門を施錠し来校者を一人ひとり確認したり、監視カメラを設置したりという対応も事件以降のことです。こんな世の中にしてしまったのは私たち大人かと思うと、子どもたちに申し訳ない気持ちになります。遠足や校外学習の引率で子どもたちを連れていくと、優しく微笑みかけたり、話しかけたりしてくれる方々に、子どもたちが元気に挨拶をする場面がよくあります。これが本来の景色だと思いたいです。目の前の子どもたちに「皆さんは多くの大人に愛され、守られています。ですから、安心して伸び伸びと学校生活を送ってください。」と胸を張って語れるよう、これからも地道な対策を続けてまいります。引き続き保護者や地域の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。

